

トレーサビリティ

牛の誕生日や場所、 流通経路が分かります

個体識別番号の場合

10桁の個体識別番号が表示されている場合は、その番号で検索できます。

黒毛和牛肩ステーキ用
牛個体識別番号 1234567890

牛肉パックのラベルシールを確認

精肉売場に並べられている牛肉パックのラベルシールには値段などとともに個体識別番号（またはロット番号）が表示されています。

ロット番号の場合

国産黒毛和牛もも焼肉用
ロット番号 12345678901234

ロット番号の場合は、購入したお店などのホームページで検索することができます。検索方法はロット番号によって異なります。

家畜改良センターのホームページで調べる

個体識別番号を家畜改良センターのホームページの検索画面に入力して検索します。スマートフォンや携帯電話で検索する場合は、下記のQRコード（もしくはURL）から画面を開くことができます。



家畜改良センター（検索サービス）
<http://www.id.nlbc.go.jp/mobile/>

個体識別番号で分かること

- 出生年月日
- 雄雌の別
- 母牛の個体識別番号
- 種別（品種）
- 飼養県、異動の内容・年月日
- 飼養施設の運営者や場所 ほか



安心・安全な
牛肉を
提供するための

登記と牛の トレーサビリティ

牛の出生から流通まで個体識別番号により一元的に管理する
牛のトレーサビリティをご存じですか？

子牛登記

名前

雌雄が分かりやすいように、雄は漢字、雌はひらがなで付けられます。

鼻紋

鼻紋は、その牛固有のもの。本牛と登記証明書の牛が同一であることを証明するために添付。

個体識別番号

平成15年12月1日より施行された牛トレーサビリティ法により牛一頭ごとに管理されています。

血統

子牛登記証明書には、二代祖までの父母名と三代祖の父名が記載されています。

優れた血統の 種雄牛の確保が重要

牛の成長や、肉の歩留まり、サシの入りやすさなどは、遺伝的な要素が大きく影響するため、子牛の取引時には血統が重視されています。人工授精が広く普及している和牛の世界では、液体窒素で冷凍保管された精液を全国の繁殖農家などに供給し、子牛が生産されています。

優れた血統の子牛を生産するためには、そうした血統の種雄牛の確保が必要です。特に優れた血統の種雄牛の精液は、数万円で売買され、何万頭もの子孫を残している種雄牛も存在しています。



子牛の登記・記録

和牛の登録事業は、大正9年から10年にかけて各県で始まりました。現在では、黒毛和種、褐毛和種、日本短角種、無角和種の4品種の和牛が各家畜登録機関により、それぞれ登録されています。また、すべての子牛は産まれると牛トレーサビリティ法に基づき出生届を行い、10桁の個体識別番号が印字された耳標が付けられます。子牛は登録のための検査を受け、合格すると子牛登記証明書が発行されます。

和牛登録には「子牛登記」のほか、「基本登録」「本原登録」などがあります。どの区分にも、それぞれ登録申請には条件がありますが、すべての基本となるのは子牛登記による登録された血統や能力の情報です。一方、個体識別番号には流通面においても大きな役割が求められています。



優れた母牛を育てる

優れた母牛は、優れた子牛を定期的に産んでくれ、経営農家に利益をもたらします。
では優れた母牛は、どのように育てられているのでしょうか。

県畜産共進会に挑戦！

伊佐農林高等学校（鹿児島）

農家の高齢化が著しく、出荷頭数が減少の傾向にある伊佐地域活性化のためにも長期的な育成農家計画を練り、共進会にチャレンジ。平成27年伊佐市の秋季共進会グランドチャンピオンを獲得しました。

畜産業活性化につながる優れた母牛の育成

優れた母牛とは、優れた子牛を長期間にわたって産んでくれる雌牛のことです。血統や発育状態、骨格の丈夫さ、体格などから母牛候補となると、日光浴をさせたり適度に運動をさせて、ストレスを与えないように育てられます。太り過ぎは出産に影響するため、餌も配慮されます。

しっかりした骨格は、600kgともなる体重を長く支え、数多くの出産に耐えられる体を形づくれます。血統や体格など優れた資



開催は5年に1度。 全国和牛能力共進会

よりよい和牛の生産を目指して5年に1度開催される全国和牛能力共進会は、次回（平成29年）で11回目となります。最終の比較審査は、平成29年の9月7日から11日にかけて、宮城県仙台市で行われます。

回ごとに和牛生産・改良上の目標を開催テーマとして掲げ、そのテーマに向けて全国の和牛農家は日々努力を続けています。

平成29年のテーマは、「高めよう生産力 伝えよう和牛力 明日へつなぐ和牛生産」。和牛が持つ優れた能力に磨きをかけ、繁殖・肥育両面から生産効率を向上させ、日本の食文化を支える和牛の魅力を広く発信していきたいという思いが込められています。



全国和牛能力共進会・種牛審査の様子。

引き運動、立たせ運動などを適度に行う。心臓、血管、肺の発達を促し、病気への抵抗力を強める。また、体型や姿勢を整えるためにも運動は必要。

ブラシかけや、声かけをマメに行い、人にならす。

十分な栄養を与えるが、太り過ぎは禁物。飼料計算をきちんとして、栄養過多にならないよう気をつける。

日光浴をさせる。発育に必要な骨のほとんどは、カルシウムとリンからできるが、それらを骨に蓄積させるために必要なビタミンDは、日光に当たることで機能する。

爪の管理が悪いと体型が崩れるので、削蹄を行う。

牛舎は、清潔・乾燥を心がける。ふんをよく観察し、子牛が下痢にならないよう注意。また、きれいな水をいつでも飲めるよう用意する。